朝日新聞 ならしの朝日
NARASHINO ASAHI
【毎月5日発行＝朝日新聞のASAからお届けします】 第953号 2022年（令和4年）11月5日

ならしの朝日新聞社
発行人　秋本　満
〒275-0026 習志野市谷津4-3-17
電話　047（454）2355
FAX　047（454）2357
編集・広告　習志野朝日株式会社
売価200円（税込）

向山・谷津南小学校区V

モリシア杯少年野球大会

第37回モリシア杯「習志野市小学校区対抗少年野球大会」が10月8日と10日、第一カッター球場ほかで開かれた。

大会はモリシア杯少年野球実行委員会の主催で行われた。開会式では、大会会長を務めるモリシア津田沼の杉山浩一館長が球児たちの育成につながる開催の意義について述べ、実行委員長の習志野市少年野球連盟の中川内由則会長は「集大成の大会、がんばって下さい」とエールを贈った。

選手代表の東習志野小学校区チームの後藤亮介主将が「ぼくたち選手一同は、日頃の練習の成果を十分に発揮し、ぼくたちを支えて下さるすべての方々に感謝の気持ちを込めて、最後の一球まであきらめず、正々堂々、全力で戦うことを誓います」と力強く宣誓した。

大会では13チームによる、熱戦が展開され、向山・谷津南小学校区が優勝を飾った。向山小学校区としては1993（平成5）年以来、谷津南小学校区としては1996・7（平成8・9）年の2連覇以来、優勝回数は通算4回となった。

大会結果は次の通り。

▽**1回戦**
谷津小 9—8 津田沼小
鷺沼小 8—2 大久保小
屋敷小 3—1 秋津・香澄小
実花小 11—4 習志野・京
藤崎小 9—2 大久保東小

▽**2回戦**
谷津小 4—1 東習志野小
向山・谷津南小 10—6 鷺沼小
実花小 10—1 屋敷小
藤崎小 10—0 実籾小

▽**準決勝戦**
向山・谷津南小 10—3 谷津小
実花小 5—0 藤崎小

▽**決勝戦**
実花小学校区　1 2 0 0 0 0 3
向山・谷津南小学校区　1 0 0 3 0 ×　4

▽**バッテリー**＝中墓、中原、糸山—糸山、中墓（実花）村田、島田、小林、柳瀬—扇（向山・谷津南）

▽**本塁打**＝田中（向山・谷津南）

▽**二塁打**＝五十嵐（実花）田中（向山・谷津南）

【後記】

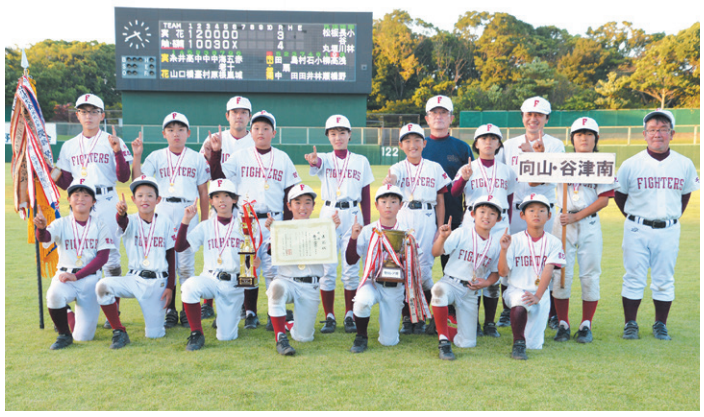
決勝戦は実花小学校区と向山・谷津南小学校区との顔合わせとなった。

1回表、実花は1番糸山の左前安打、2番井口の中前安打で走者一、三塁とし、3番高橋の内野ゴロで糸山がかえり1点先取。1回裏、向山・谷津南は1番田中が右中間二塁打。二死となるが、4番村田の内野ゴロがエラーを生み、田中がかえり同点とする。2回表、実花は7番海老根が死球で出塁。8番五十嵐の左越二塁打で海老根がかえり、糸山の内野安打と盗塁で二死走者二、三塁。井口の打席、悪投球で五十嵐がかえりこの回2点を奪う。3回表には二死ながら満塁の好機を迎えるが、向山・谷津南は捕手・扇の好捕もあり、継投良く、得点を許さない。

向山・谷津南の反撃は4回裏、8番高橋の左前安打、2回から代走で入った9番浅野の左中間安打で一死走者一、三塁。田中の打席、悪投球で高橋がかえり1点。田中は2点本塁打で逆転を果たし、これが決勝点となり、勝利した。

向山・谷津南小学校区の小林一希キャプテンは「いままであと一歩で優勝できなかった悔しさを糧に今日まで練習をしてきました。決勝戦では、リードされていたものの、最後まであきらめずチーム一丸となって戦ったことが逆転につながりました。小学生最後の市内大会で最高の仲間たちと優勝できてうれしかったです」と話した。

準優勝の実花小学校区



優勝の向山・谷津南小学校区

第3位の藤崎小学校区

第3位の谷津小学校区

中学野球新人戦 五中が優勝飾る

令和4年度習志野市中学校新人体育大会の野球の部が9月18日から10月2日まで、第一カッター球場ほかで開かれた。

トーナメント戦の結果、五中が優勝を飾った。五中の優勝は県大会で優勝を果たした2017（平成29）年以来。県大会は10月15日から開催。

決勝戦は二中と五中との対戦となった。先制したのは五中。1回裏、五中は1番櫻澤が左前安打で出塁し、盗塁。2番飛田の内野ゴロの間に三塁へ。3番井上和は四球で、一死走者一、三塁とする。4番本多の打席、井上和が盗塁。櫻澤の離塁への三塁送球がそれ、その間に櫻澤がかえり、五中が1点先取。3回裏には、先頭の櫻澤が左前安打で出塁し、盗塁。飛田の内野ゴロはエラーを呼び、井上和の死球で満塁。一死後、5番山下の犠飛で櫻澤がかえり、五中は2点目を挙げる。

五中投手・本多はテンポの良い投球で3回まで二中を三者凡退に抑え、4奪三振。4回表に2番野澤から左前安打を打たれるが、5回表まで無得点に抑える。二中は6回表、先頭の8番糸山が三塁強襲安打で出塁。9番鷲尾の内野ゴロの間に糸山は三塁へ。1番飯塚の打席、糸山が送球の間をつき本塁を陥れ、1点を返す。五中は二中の石野、石井の継投に4回以降は無得点。二中も最終回、4番石井が左前安打を放つが後続なく、五中が1点差ゲームに勝利した。投手・本多は被安打3、8奪三振。

優勝した五中の井上和海キャプテンは「守備では『一つ一つのアウトを丁寧に』、攻撃では『初球から積極的に』ということをチームとして徹底できた結果、優勝することができました。県大会でもこれを変えずに、勝ち進んでいきたいと思います」と話した。

大会結果は次の通り。

▽**1回戦**
一中 8—1 東邦中
五中 8—0 七中
六中 6—2 四中
二中 7—0 三中

▽**準決勝戦**
五中 4—1 一中
二中 8—1 六中

▽**決勝戦**
二中　0 0 0 0 0 1 0　1
五中　1 0 1 0 0 0 ×　2

優勝の五中

モリシア杯写真展 11月中旬開催予定

モリシア津田沼では、第37回モリシア杯「習志野市小学校区対抗少年野球大会」を撮影した「モリシア杯少年野球写真展」を11月中旬から開催する予定。

大会には16学校区から13チームが参加。熱戦が繰り広げられた。モリシア津田沼では、懸命にプレーした球児たちや仲間を応援する姿などが700枚以上の写真で紹介される。